

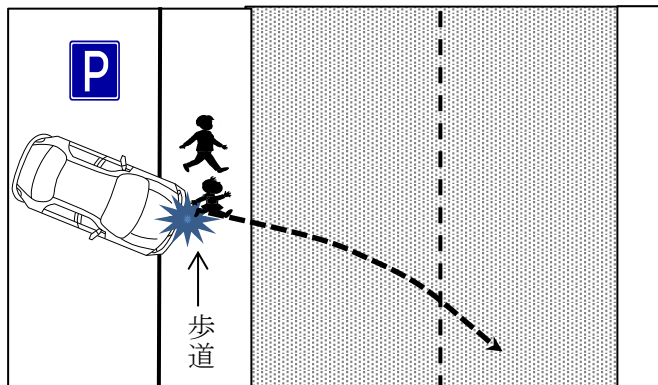
# 車の死角に注意！

幼児の重大事故の中には、運転者が「幼児の姿が見えなかった」という事例が多くあります。保護者が子どものそばにいるから安心とは言えません。一瞬の隙に幼児の交通事故は起こっています。

## ■母親と歩道を歩いていて・・・

母親と一緒に歩道を歩いていた幼児（3歳）が駐車場から出てきた車にひかれて、亡くなるという痛ましい交通事故が発生しました。

車は、駐車場から右折で道路に出ようとしたところ、母親の後ろを歩いていた幼児に気がつかなかったものです。（H30 京都府）



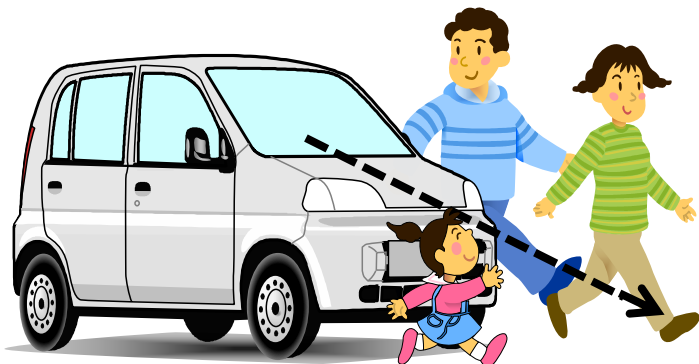
幼児は背が低いため、運転者から見落とされやすいことが事故の一因と考えられます。



## ■バックしてきた車にはねられ・・・

住宅の駐車場からバックで出てきた軽乗用車に女兒（2歳）がはねられて死亡。この事故でも、近くに母親がいましたが、気付いたときには女兒が倒れていたということです。（H28 長野県）

## ■幼児はドライバーの死角に入る！



いずれも保護者が一緒にいましたが、事故は起こっています。

- ・外に出たら子どもの手は必ずつなぎ、大人と行動を共にしてください！
- ・スーパーなどの駐車場内も要注意！



## 親が我が子をはねる痛ましい事故が後を絶ちません！

「家の中にいるだろう」「誰かが見ているだろう」は危険です。また、「そこで待っていて」と言っても待てないのが幼児です。

- ・車を動かす際は、一緒に車に乗せておくか、「誰とどこにいるか」確認してください！

お子さんと車で出かけるときは、

- ・先に子どもを乗せ、降車時は、大人が先に降りる！
- ・子どもだけを外で待たせないでください！

## ■母親の車に轢かれ・・・

母親の運転する乗用車に女兒（1歳）がひかれ、約1時間後に搬送先の病院で死亡。現場は、自宅の目の前で、母親が知人を送るために駐車場から車を出した際、車の前にいた長女に気付かなかったものです。（H30年7月兵庫県）

## ■父親の車に轢かれ・・・

父親の運転する乗用車に男児（2歳）がひかれ、搬送先の病院で死亡。父親は、家族で外出するため、自宅の駐車場から車を出すところでした。（H30年10月兵庫県）